

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

ただし、地政学リスクが実際に危機に繋がる可能性は大きくはなく、また米国の為替政策に関しては、今後の日米経済対話の行方を次第といえるでしょう。

したがって、メインシナリオはドル上昇という年後半に向けての展望を転換するには時期尚早であり、当面は地政学リスクの高まりと米国の政策スタンスというリスクを見極める必要があると考えます。

ドル/円相場のトレード戦略

■ 短期展望

先週は、週初に朝鮮半島情勢を巡る地政学リスクが高まったことを背景に108円13銭まで下落したものの、週後半にムニューシン米財務長官が「長期的には強いドルは良いこと。」と述べたことで109円台を回復する動きとなりました。

今週は、フランス大統領選をめぐる警戒感が後退したことで、先週末から大きく窓を開けて110円台でのスタートとなりました。

ただし、ドルの底割れのリスクは遠のいたものの、朝鮮半島情勢を巡る地政学リスクは依然燃っており、トランプ政権の税制改革に対する不透明感もあるため、明確な方向性を掴みにくくなっています。

したがって、今週は、108円半ばから112円半ばのレンジ内で、ニュースに反応して上下動する相場を想定します。